



カケハシ・プロジェクト（米国／カナダ） 対面学生会議 フォローアップ事業の記録

1. プログラム概要

日本に滞在するカケハシ・プロジェクト過去参加者（米国・カナダ・日本）が2日間にわたり、日本の災害及び復興の現状、またそれに対する防災の取り組みについて学び、ワークショップの議論を通じて、参加者同士の相互理解を深め、カケハシ同窓生としての意識を向上させることを目的としたプログラムを実施しました。

【参加者】2024年度までのカケハシ・プロジェクト参加の同窓生 合計9名
（内訳）米国5名、カナダ1名、日本3名の大学生・大学院生・社会人

【訪問地】東京都

【日程】

■ 対面学生会議：

- | | |
|------------|--|
| 11月8日（土曜日） | 【オリエンテーション】
【アイスブレイク】
【講義】「日本における土砂災害とその対策」
講師：国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 保全課 大山 誠 氏
【質疑応答】
【視察】東京都復興記念館
【簡易ワークショップ】
【交流会】 |
| 11月9日（日曜日） | 【視察】池袋防災館
【ワークショップ】報告会準備（プログラム成果のとりまとめ、プログラム後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
【報告会】
プログラム成果・プログラム後の活動計画（アクション・プラン）発表
【懇親会】 |

2. 記録写真



11月8日【オリエンテーション】



11月8日【アイスブレイク】



11月8日【講義】
「日本における土砂災害とその対策」



11月8日【講義】
「日本における土砂災害とその対策」記念撮影



11月8日【視察】東京都復興記念館



11月9日【視察】池袋防災館



11月9日【報告会】



11月9日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ カナダ 社会人

各セッションでは、様々な災害に関する基礎知識と、そのような状況下でどのように身を守るかを実践的に学ぶことができました。このプログラムを通して、困難な状況においても日本の地域社会がいかに対応力・回復力があるかを深く理解することができました。防災技術と教育訓練を組み合わせた地域・個人に焦点を当てた防災対策にも感銘を受けました。日本での生活にしっかり備えられたと感じており、私自身と地域社会のために今後もこのような訓練に引き続き参加したいと思っています。また、日本を別の側面から理解する機会として日本を訪問または移住する友人にもこのような場所をお勧めしたいと思います。

◆ 米国 社会人

この防災プログラムは本当に素晴らしかったです。SABO について学ぶことができ、地震シミュレーションにも参加できてとても楽しかったです！今度は妻も防災館に連れて行き、地震シミュレーションを体験してほしいと思います。他の同窓生と交流できたのも良かったので、今後、他の同窓生とともにイベントや学習体験に参加したいと思っています。プログラムを通して学んだ情報を職場に持ち帰り、同僚に対して研修を実施したと思います。

◆ 日本 社会人

英語があまり堪能ではない私にとってこのプログラムはなかなか難しかったのですが、この2日間は本当にやりがいのあるものでした。災害への備えについてより深く学べただけではなく、他の同窓生と交流できたのがとても良かったです。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

受講者が土砂災害にあまり縁のない国々（米国・カナダ）であり理解いただけるか不安だったため、説明の際には、土砂災害のみではなく、地震・洪水・火山災害など、日本で発生する自然災害に関して幅広く言及するように心がけました。受講者からは良い反応をいただけて安心しました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

Wonderful to learn more about disaster preparation and resilience in Japan. My favorite part was getting to experience a simulation of a magnitude 7 earthquake! Thank you to JICE for putting this wonderful alumni event together! #kakehashiproject #KAC 翻訳を表示 	2025 年 11 月 8 日（LinkedIn） 米国 社会人 日本の災害対策とレジリエンスについて学ぶことができとても良かったです。特に印象に残ったのはマグニチュード7の地震のシミュレーションを体験できたことです！
---	--

	2025 年 11 月 8 日 (Instagram) カナダ 社会人 東京都復興記念館
	2025 年 11 月 8 日 (Instagram) 日本 社会人 週末に防災について学んでいます。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都 全 2 グループ発表

グループ A		
	Use and Share Hazard Maps - Many people don't know hazard maps are available online. - Paper maps are often forgotten after we receive them. - Online maps let us check anytime (risks / shelters / evacuation routes). - Being informed = Preparedness - We will: - Use hazard maps and disaster info apps regularly - Encourage family and friends to check them too 	Raise awareness of disaster prevention - Not only earthquakes themselves but also disasters like fires and tsunamis have killed many people. - Even if people have survived, it may hard to return home or contact their families by smartphone. - We will: - Do more emergency drills to practice for the real emergency. - Discuss with your family before disaster happens. 
【アクション・プラン】 - 地域コミュニティと連携した教育的・体験型観光ツアーの開発：SABO 技術（砂防技術：土石流や地すべり、がけ崩れ等の対策）の普及促進を対象にします。 - ハザードマップの活用と共有：ハザードマップとアプリの活用、家族や友人にそれらをチェックするよう勧めます。 - 防災意識の向上：避難訓練の実施。災害が起こる前に防災について家族と話し合います。		

グループ B



【成果の発表】

日本は災害リスクの高い環境にあります。そのため、事前の準備が鍵となり、特にソフト面での対策が重要であると考えます。

【アクション・プラン】

A. 災害に対する備え

- ・ 自分の住まいの立地リスクを把握します。
- ・ 賃貸契約書の内容を見直します。
- ・ 避難経路を覚えます。
- ・ 非常持ち出し袋の準備をします。

B. 外国人への配慮

啓発キャンペーンの戦略として、デジタル及び教育的な取り組みを実施します。

- ・ デジタルエントリーポイント：「Visit Japan」QR コードウェブサイトにて、防災に関する重要な情報とリンクを掲載します。
- ・ インタラクティブエンゲージメント：災害に関する、短く楽しい多言語クイズやゲームを提供します。
- ・ 地域での訓練と PR 活動：地域の防災センターで、定期的実践的な講座や訓練を実施します。

C. 災害発生時

- ・ 避難計画を実行します。
- ・ リアルタイム情報を確認します。
- ・ 家族とのコミュニケーションを確保する方法を実践します。

【まとめ】

- ・ 居住場所の安全を確保します。
- ・ 災害時の備えを徹底します。
- ・ 情報収集を継続します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）